

会場 / 慶應義塾大学 三田キャンパス (〒108-8345 東京都港区三田2-15-45)
会場アクセス ▶ <http://www.keio.ac.jp/ja/access/mita.html>

福島大学 (〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地)
会場アクセス ▶ <http://www.fukushima-u.ac.jp/new/18-koutu/index.html>

共催 / オーストラリア学会

後援 / 福島大学 行政政策学類・比較文化講座

9日(水) 19:00-21:00

公開講座 1 慶應義塾大学
三田キャンパス

会場
北館3階 大会議室

講師
Tilman Ruff 氏
メルボルン大学 准教授
／ 核戦争防止国際医師会議 (IPPNW) 共同代表

コメンテーター
松岡 智広 氏
投資アナリスト / Japanese for Peace

10日(木) 14:40-16:10

公開講座 2 福島大学

会場
M講義棟3階 AV教室

講師
松岡 智広 氏
投資アナリスト / Japanese for Peace

コメンテーター
藍原 寛子 氏
フリージャーナリスト

10日(木) 18:00-20:45

公開講座 3 福島大学

会場
M講義棟3階 AV教室

講師
Tilman Ruff 氏
メルボルン大学 准教授
／ 核戦争防止国際医師会議 (IPPNW) 共同代表

コメンテーター
藍原 寛子 氏
フリージャーナリスト

2013.1.9(wed)-1.10(thu) **入場無料
事前予約不要**

豪日交流基金サー・ニール・カリー奨学金受賞公開講座

ポスト311期の 日豪市民社会 対話と協働の可能性を探る

東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故は、オーストラリアの人々にも衝撃を与えました。多くのオーストラリア市民が被災地の惨状に心を痛み、寄付などを通じて支援を行ないました。また原発事故などにより避難を余儀なくされた人々、とりわけ子どもたちをオーストラリアにホームステイさせる活動なども、在豪日本人住民を中心に広がりを見せました。一方で、オーストラリアは日本にとっての主要なウラン輸入先のひとつであるという事実にも、改めて目が向けられています。原発事故発生直後、北部準州レンジャー鉱山を含む地域をホームランドとするアボリジニの長老が、祖先の土地から産出されたウランが福島原発で使用され環境を汚染していることへの痛惜の意を国連事務総長へのメッセージとして表明しました。オーストラリア最大のウラン鉱山であるオリンピック・ダム周辺に住むアボリジニの指導者も来日し、NGOや市民と意見交換を行いました。在豪日本人の市民グループとオーストラリアの複数のNGOが協働して、メルボルンにおいて大規模な市民集会も開催されました。

本公開講座では、医学的見地からこの問題に関与し、市民運動との関わりも深いメルボルン大学准教授のTilman Ruff氏と、日豪の上場企業を中心とした社会的責任投資分野専門のアナリストであり、オーストラリアのNGOと協力しつつメルボルンでの市民活動を展開する松岡智広氏を講師としてお招きします。両氏との対話の中から、人類の生命と尊厳、持続可能な文明のあり方に関心を抱く日豪双方の市民のあいだに新たな対話と交流の可能性を模索します。

お問い合わせ

塩原 良和 (慶應義塾大学)
▶ shiobara@law.keio.ac.jp

村上 雄一 (福島大学)
▶ murakami@ads.fukushima-u.ac.jp



Australian Government



豪日交流基金
Australia-Japan FOUNDATION